

信州大学 正員 〇石川 清志

正員 夏目 正太郎

正員 谷本勉 助

1. まえがき

弾性床上の連続ボックス・ラーメンの構造系はしばしば実施面に応用され、解析するに非常に興味深いものである。しかしこの系の解析は弾性床上の部材が曲げ挙動を受ける処置において、いろいろと困難が生じると考えます。この力学系の解析のため基礎的仮定はこの弾性床上部材の各点のたわみ、および軸変位に比例した分布反力が基礎地盤から部材に作用することである (Winkler の仮定)。

2. 状態ベクトル

状態ベクトル (State Vector) は一般変位 ψ と一般力 ∇ から成り

$$\psi(p)_{r_i} = P(p) [X + \langle K(p) \rangle], \quad (1)$$

$$\nabla(p)_{r_i} = Q(p) [X + \langle K(p) \rangle], \quad (2)$$

ここに於いて、 $i = 1, 2, 3$ 。 $P(p)$, $Q(p)$ は座標マトリクスである。 X は固有マトリクス (Eigenmatrix) で、 $K(p)$ は p 点における荷重マトリクスである。

弾性床上部材は $i = 1$ とし、Winkler の仮定も含んだ座標マトリクスと荷重マトリクスをとる。その他の部材は $i = 2, 3$ とし、普通梁の座標マトリクスと荷重マトリクスをとる。

3. 漸化式

連続構造体系は単位構 (Unit) の連続したものと考え、図-1 から、ある2つの単位構向から変位および力釣り合と等式、また中間部材 (r_3) は部材の両端の変位適合性より部材 ($r-1, 1$) および部材 ($r-1, 2$) へ X_{r_3} を分配し、上部材と下部材の移行だけにします。また荷重状態は任意でよく、とくに地震荷重等の水平荷重もとりうる解である。

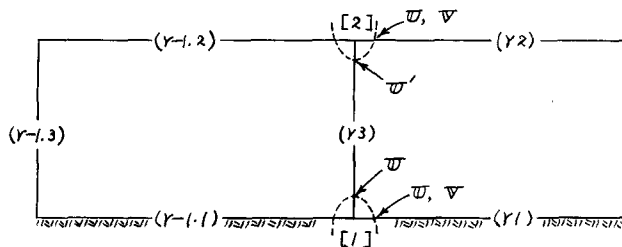


図-1 2つの単位構

まず結合点 [1], および [2] に於いて

$$\psi'_{r-1,1} = \psi_{r1} = R \psi_{r3}, \quad -\nabla'_{r-1,1} - \nabla_{r1} + R \nabla_{r3} = 0, \quad (3)$$

$$\psi'_{r-1,2} = \psi_{r2} = R \psi'_{r3}, \quad -\nabla'_{r-1,2} + \nabla_{r2} - R \nabla'_{r3} = 0, \quad (4)$$

これより

$$X_{r1} = L_{r1}^1(X+K)_{r-1,1} + L_{r1}^2 X_{r3}, \quad (5)$$

$$X_{r2} = L_{r2}^1(X+K)_{r-1,2} + L_{r2}^2(X+K)_{r3}, \quad (6)$$

また (3), (4) において, 他方変位適合性より

$$X_{r3} = L_{r3}^1(X+K)_{r-1,1} + L_{r3}^2(X+K)_{r-1,2} + L_{r3}^3 K_{r3}, \quad (7)$$

(5), (6), (7) より, 漸化式に組みます

$$Z_r = L_r Z_{r-1} + [F_r \quad G_r] \begin{bmatrix} K_{r-1} \\ K_r \end{bmatrix}, \quad (8)$$

$$Z_r = \{X_1 \quad X_2\}, \quad (9)$$

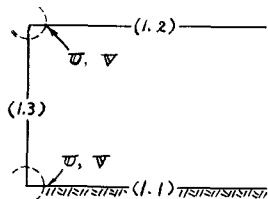
(8) により, $r=2, 3, 4, \dots, n$ をとることにより, 幾何的移行がえ, Z_n と Z_1 であらわすことが出来る.

4. 境界条件

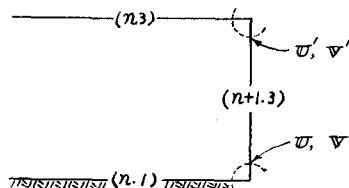
図-2 のように, 各結合点における変位および力釣合から, まず左端の境界条件より

$$U_{11} = R U_{13}, \quad V_{11} + R V_{13} = 0, \quad (10)$$

$$U_{12} = R U'_{13}, \quad V_{12} - R V'_{13} = 0, \quad (11)$$



左端境界条件



右端境界条件

図-2 境界条件

(10), (11) より

$$Z_1 = L_1 X_{13} + F_1 K_1 \quad (12)$$

右端より

$$R U_{n+1,3} = U'_{n1}, \quad -V'_{n1} + R V_{n+1,3} = 0, \quad (13)$$

$$R U'_{n+1,3} = U'_{n2}, \quad -V'_{n2} - R V'_{n+1,3} = 0, \quad (14)$$

この釣り合式より

$$C Z_n + [D_n \quad D'_n] \begin{bmatrix} K_n \\ K_{n+1} \end{bmatrix} = 0. \quad (15)$$

5. 最終方程式 (8) の演算をもって Z_1 の式になり, (12), (15) の境界式より

$$X_{13} = [C] \{K\}. \quad (16)$$